

中部巻頭

中部支局

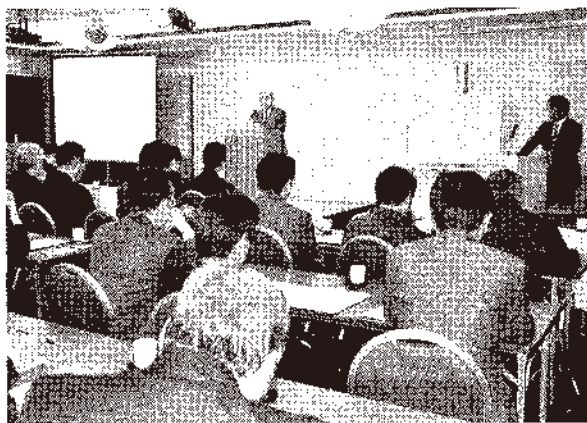
名古屋市中区栄3の28
の25HARADA栄南
302号
電 話052(269)0341
FAX052(269)0342

中部運輸局管内5県の
情報を報道しています

「知名度アップ課題」

静岡 UDタク研究会が会合

静岡県内でユニバーサルデザイン(UD)タクシーを導入または検討中の事業者がつくる静岡UDタクシ―研究会(発起人川藤高立、塚本昭西氏)の第2回会合が静岡市内で開催された。写真、講演した静岡県の藤田博之くらし・環境部管理局政策監付(企画課長)が「ユニバーサルデザイン」の言葉を6割以上が認知している実態を明らかにする一方、静岡運輸支局の久保田素広運輸企画専門官は「UDタクシ―が一般タクシ―としても認知されることが課題」と述べ、普及に向け取り組み方向を示した。



研究会の1部で、静岡県UDタクシ―の現状」を藤田氏が「ユニバーサルデザインとは」、静岡運輸支局の久保田氏が「県内の

藤田氏はユニバーサルデザインのキーワードとして「だれもが使える、使いやすい、わかりやすい、安全、安心」と提示し、各分野を説明した。

個人タクシ―試験に15人、交通園別では、名古屋中部運輸局は16日、個人タクシ―試験受験免除もタクシ―譲渡受申請に伴う法令・地理試験を実施した。申請16人のうち、1人岐阜1人、福井1人(同一人)が取り下げ、15人が受験した。

での県の取り組み事例を紹介。県民意識調査の結果、「だれもが喜ばしやすいためちづくりが進んでいると感じる」が04年41・6%から11年には65・7%に、「ユニバーサルデザインという言葉を知っている」が99年31・1%から10年64・8%に増えて浸透してきたと報告した。

また「UDタクシ―が一般タクシ―としても認知されるのが課題で、PRの際、福祉限定との誤解を受けないように留意することが大切」と喚起した。

2部では、最近1年間に導入した事業者が事例発表

した。千代田タクシ―の担当乗務員は「お客さまの反応は、明るい時間帯だと、車内は広く快適だから、小型料金(得)した気分になる、といわれる。しかし、アルコールの入った時間帯になると、小型を頼んだのにどうして大型が来るんだ、白い救急車みたいな車を頼んだ覚えはない、まだ介護の車の世話にはなりたくない、といった誤解による反応がある。ただ、今後はUDが次世代を担うタクシ―にな

っていくと思う」と誤解を解いていくことで需要は出てくると述べた。金谷タクシ―の女性乗務員は「車体が大いので小型車とは思われず運賃が高いと誤解されることが多い。センターにコンソールがないため運賃を床に置かれたので、白社で作って対応した。さまざまなお客さまの利用があり、身体の状態をできるだけ知って親身に接することが大事だ」と体験に基づく教訓を述べた。

久保田氏は、バリアフリー新法で目標としている2020年までの福祉車両2万8000台導入に向け、11年度から公共交通バリア解消促進事業が始まっているとして、国の補助事業や自治体の協調補助などを説明した。

観光ガイド乗務員認定



岐阜市周辺観光タクシ―11年度観光講習会を開催し、協賛協議会(会長川藤高立)は今年度初めての乗務員の観光知識を問う試験を実施し

た。40人が参加し、全員が合格。観光ガイド乗務員として認定した。買頭、協議会の澤井会長は「今年、岐阜では秋に団体が開催されるほか、長良川(つかいミュージアム)も完成する。さまざまイベントで訪れた人に、岐阜の観光はよかった、と言ってもらえるようにしたい」とあいさつした。接客講習では、トヨタエントラープライズの棚瀬あづさ氏が「CS向上の接客マナー」と題して研修した。参加者のあいさつの様子をビデオで撮影し、表情や声の大きさなど第一印象の重要さなどを学んだ。